

各 位

会 社 名 TL ホールディングス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 佐藤 浩二  
 (コード 3777・JASDAQ)  
 問合せ先 取締役経営企画管理本部長  
 飯富 康生  
 (TEL. 03-5809-1850)

平成 24 年 12 月期第 2 四半期連結累計及び通期の連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 24 年 5 月 14 日に公表いたしました平成 24 年 12 月期第 2 四半期連結累計及び平成 24 年 12 月期通期の連結業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想数値の修正

①平成 24 年 12 月期第 2 四半期連結累計の業績予想数値の修正 (平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 6 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想 (A) 平成 24 年 5 月 14 日公表	百万円 163	百万円 △28	百万円 △28	百万円 △32	円 銭 △43 80
今回修正 (B)	31	△60	△61	△26	△40 35
増減額 (C) = (B) - (A)	△132	△32	△33	6	3 45
増減率 (C) / (A)	△81.0%	-	-	-	-
[ご参考]前年同期実績	30	△102	△85	△127	△642 16

②平成 24 年 12 月期通期の業績予想数値の修正 (平成 24 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想 (A) 平成 24 年 5 月 14 日公表	百万円 538	百万円 4	百万円 4	百万円 0	円 銭 0 23
今回修正 (B)	456	△54	△55	△20	△32 06
増減額 (C) = (B) - (A)	△82	△58	△59	△20	△32 29
増減率 (C) / (A)	△15.3	-	-	-	-
[ご参考]前年同期実績	66	△170	△153	△183	△738 92

## 2. 修正の理由

### ① 平成24年12月期第2四半期連結累計

売上高予想につきましては、ソリューション事業が対前年同四半期比で12%増と順調に伸長したものの、当第2四半期売上高予想の主要な部分を占めていた、新たな事業分野として展開した中古パソコン事業が当初の事業戦略の変更を余儀なくされたため、事業の立ち上げに大幅な遅れが生じたこと及び新たな事業分野である環境事業も県・市町村等の除染計画の実施時期の度重なる遅れ等から、収益への貢献がなく、売上高予想を163百万円から31百万円に下方修正するものであります。

130百万円の売上高を見込んでいた中古パソコン事業は当初計画していた自社体制での事業展開から、中古パソコン事業会社との提携による事業戦略へと展開を変更いたしました。この変更により、当初のウェブサイトによる回収とリース会社からの買い取りによる仕入れの計画を変更し、ウェブサイト経由の無料回収を優先し、当該事業の売上予想の大きいリース会社からの買い取りは当面延期することになりました。ウェブサイト立ち上げの遅れから、当第2四半期売上高に貢献することはできませんでした。

中古パソコン事業の立ち上げの遅れによる売上高減少を補うため、新たな事業分野として環境事業を開始しましたが、県・市町村等の除染計画の汚染土壌・瓦礫置き場の確定の遅れによる具体的実施時期の度重なる延期はゼネコン等の除染事業受注の延期となり、中古パソコン事業の売上高の落ち込みを補う売上高計画の主な部分を占めるテクニカル・オペレーター派遣事業に大きく影響し、且つ助成金等の具体的実施時期の未確定により除染の請負事業の需要減及び作業開始時期の延期をもたらし、当第2四半期売上高に貢献することはできませんでした。

営業利益予想につきましては、売上高の下方修正により新たな事業からの営業利益の見込みが大きく減少し、営業利益予想を△28百万円から△60百万円に下方修正するものであります。

経常利益予想につきましては、営業利益の下方修正により△28百万円から△61百万円に下方修正するものであります。

当期純利益予想につきましては、経常利益の下方修正があるものの、受取損害賠償金及び債務消滅益の特別利益35百万円を計上したことにより、当期純利益を△32百万円から△26百万円に上方修正するものであります。

### ② 平成24年12月期通期

売上高予想につきましては、上記①で記載しましたようにソリューション事業は堅調に推移するものの、新たな事業の展開遅延が当初の予想を回復できるものではなく、売上高予想を538百万円から456百万円に下方修正するものであります。

中古パソコン事業は事業提携先との具体的な協業開始が第3四半期後半までずれ込むものの、新たな仕入先としてリース会社開拓を行い100百万円の売上高を見込むものであります。

環境事業は県・市町村等の除染計画の実施時期の遅延が第3四半期後半には解消されるものと予想し、テクニカル・オペレーターの派遣事業を主として280百万円の売上高を見込むものであります。

営業利益予想につきましては、売上高増加に伴う経費の増加はみられるものの、販管費の効率的運用によりコスト削減をおこなってまいりますが、第2四半期連結累計の営業利益の下方修正により、営業利益予想を4百万円から△54百万円に下方修正するものであります。

中古パソコン事業は売上高予想には貢献する見込みではありますが、新規参入のため仕入れ価格と販売価格との差(売上総利益)が小さくなることが予想されることから営業利益予想に大きく貢献することはありません。

環境事業は売上高予想に貢献するとともに、必要とされる販売管理費は少なく予想されることから営業利

益予想に大きく貢献するものと見込んでおります。

経常利益予想につきましては、営業利益の下方修正により、経常利益予想を 4 百万円から△55 百万円に下方修正するものであります。

当期純利益予想につきましては、経常利益の下方修正により、当期純利益予想を 0 百万円から△20 百万円に下方修正するものであります。

(注) 上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上